

「新しい学芸ルネッサンスへの哲学——フィレンチェとローマに触発されて」

1 21世紀のルネッサンスとしての霊的人文主義

(1) 超近代の思想的条件

左翼思想の衰退—「物質主義→脱物質主義(イングルハート)」に対応
 他方、感性・霊性への注目 cf. 世代間討論会
 →「公共的霊性による平和」 cf. ヨハネ・パウロ2世
 現代思想(唯物論的・虚無主義的—ポスト・モダン思想)の誤謬
 →超近代の思想の必要性

ただし、注意点 近代的達成の軽視

- ①悪性カルトの罨 ex. オウム真理教事件
精神世界→新精神世界
- ②原理主義的宗教の危険性 キリスト教・イスラーム
⇒「反テロ」世界戦争
- ③理性の軽視 理性・感性・霊性の統合の必要性
- ④自由・個人(個性)の抑圧 自由学芸の重要性
→超近代に際して、近代を踏まえた超近代である必要性

(2) 21世紀の新人文主義としての霊的・公共民的人文主義

アメリカ・ブッシュ政権 原理主義

⇔ヨハネ・パウロ2世 カトリック

復活祭(3月27日) フィレンチェ ウフィツィ美術館

(→公共民的人文主義) ルネッサンスの思想的復活(!)

翌日、ローマ、バチカン。ヨハネ・パウロ2世最後の式典の余香と、バチカン博物館やシステリーナ礼拝堂におけるキリスト教的ルネッサンス(宗教+ルネッサンス——霊的ルネッサンスの原型)

ギリシャ哲学—ルネッサンスは上記4点の問題点を克服する

→霊性の復興に際して、近代の人文主義の精神を「復活」させる

学芸(学問・芸術)の改革と新時代における復興・再生

西洋 学問・芸術の発祥=ギリシャ/宗教=キリスト教、

中世(霊性の時代ではあるが、硬直的宗教の弊害)

→近代におけるルネッサンス(人文主義)とプロテスタンティズム(宗教改革)

→21世紀における学芸改革(学問・芸術改革)=新人文主義

人文主義にも拘らず、その後に唯物論的な「現代思想」に転落

→近代における人間性の開花を踏まえた、霊性の復権

真の人間性=霊的人間性(spiritual humanity)の開花=魂の開花、積極的人生観・世界観(ポジティブ)

(近代ルネッサンスはその後キリスト教との結びつきを欠いて、単なる人間中心主義(人間主義)に転落したが、その意義は宗教的硬直性から霊的人間性=神的人間性を開放したところにある)

さらに、プラトンが目指したように、

新しい時代に即した理想公共世界=友愛世界の実現を目指す。

近代のルネッサンスにおける公民的人文主義

→新公民的人文主義=公共民的人文主義

霊的人文主義(spiritual humanism)に立脚した公共民的人文主義(civic humanism)

を＝靈的・公共民的人文主義

地球的平和を可能にするために、学問改革と新学芸(学問・文芸)復興の理念に立脚し、万人哲人主義に基づき、公共民が愛智の学を学習し研究することを可能にする研究・教育プログラム。これによって、アクションを行う公共民を育成し、平和な「もう1つの世界＝友愛公共世界」の形成を促進する。

2 学問改革のビジョン

(1)新世界アカデミー 1994-11-17

(2)学問改革の要諦

ルター 宗教改革

1. 万人司祭主義、2. 信仰義認論、3. 聖書中心主義
キリスト者の自由

1. 哲学万人主義・万人哲人主義

2. 正思惟義認論→高思惟進化論

思惟、すなわち自己 →理念革命

3. 現代的「無知の知」→靈的「無知の知」へと発展

形而上学中心主義 存在生成論

愛知者の自由

3 学芸復興のビジョン

(1) ルネッサンスの哲学と芸術

ギリシャ哲学の復興 特にプラトン・アリストテレス哲学
プラトン・アカデミー(写真)

マルシリオ・フィチーノ、ピッコ・デラ・ミランドーラ

プラトン+新プラトン主義

→ルネッサンス芸術(文献1)

ex. ボッティチェッリ(ヴィーナスの誕生、春)

ラファエロ

(署名の間、アテネの学堂

哲学的真理

聖体の論議

宗教的真理

パルナッソス

美

対神徳と枢要徳・法律

善

(2) 思想的系譜と概要

1 プラトン主義的系譜

プラトン→新プラトン主義→キリスト教神秘主義→ルネッサンス

→ケンブリッジ・プラトニスト→ドイツ観念論、特にヘーゲル

→ホワイトヘッドなど

②概要

プラトン 当時の唯物論・人間中心主義に抗して、ソクラテスの「無知の知」を対置。さらに、古代ギリシャ宗教とは違って、イデア論([實在]理念論)を提起して真実在の世界を論理的に説明。さらに、輪廻転生・臨死体験(エルの物語)などは「物語」として補足的・比喩的に叙述。主著『国家』や『法律』などにより、理想国家論を提示。シチリアで、実践も試みる。

新プラトン主義 プロティノスらにより、プラトン哲学を神秘主義へと発展。「一者→叡智(ヌース)→魂」という発出論と一者への還帰論。ただし、プロティノスが3世紀のローマ帝政時代だったことを反映して、国家論などは欠如。

ルネッサンス・プラトン哲学 メディチ家の庇護——新プラトン主義と同様に、国家論の欠如

③公共民的人文主義との関連

他方、アリストテレス アイデア論批判(「アテネの学堂」)→独自の形而上学と経験論的思索、倫理学と『政治学』

→civic humanism(共和主義)研究ではアリストテレスを重視

→プラトンの系譜の復興と、さらに——新プラトン主義の弱点を超えて——それに立脚した公共世界論の樹立を目指す。

→公共民的人文主義(ひいては平和運動などの実践)の動機を確立するために。

④ 思想的再構成

その後の哲学(ヘーゲル、実存主義、現象学等)の展開を考慮しつつ、現在の科学的・学問的地平で再構成・発展。

[实在]理念哲学 多次元哲学、理学 物理・生理…

理念理論哲学

理念実践哲学 人生哲学

理念公共哲学

→個別の理念学(理念政治学・経済学など)

4 フィロソフィアの概要

(1)3部門構想

①アカデメイア(プラトン・アカデメイア→プロティノス以来の新プラトン主義)

義→フィレンチェのプラトン・アカデミー[コジモ・メディチ 1459年創設、マルシリオ・フィチーノ→ケンブリッジ・プラトニスト→近代アカデミー)

→公共哲学運動、COEにおける「学問改革」

1 フィラデルフィア(友愛会)

→友愛ネットワーク、地球平和公共ネットワーク、PPP

2 フィロソフィア(愛智会) philo+sohia(愛+智)=愛智学

哲学的な智慧・人生における智慧の探究

(プラトン→新プラトン主義→神秘主義、東洋思想=仏教・神道など)

→具体化

新態勢 4月から研究・教育態勢スタート

・ アカデメイア 公共民講座

・ フィラデルフィア PPP、友愛会設立

・ フィロソフィア スタッフ育成中心の実践的研究・教育部門(プログラム) 愛智学
叡智の探究 人生における智慧

(2)研究・教育カリキュラム

必修 講義・セミナー

選択 公共民講座

・ EDUCATE(内から引き出す)

・ 想起

・ 天才教育 インスピレーションを得て研究…新しいルネッサンス

(天才の時代)

(3)原則と精神

- ①学徒 友愛の同胞・朋友(フェロー)
愛知の道の同行者
- 2 思惟者としての人間=学の原点
- ③自由学芸精神 愛知者の自由 学における自由と必然

参考文献:

- 1. A・シヤステル『ルネサンス精神の深層——フィチーノと芸術』(ちくま学芸文庫、2002年)
- 2. 山本巍、今井和正、宮本久雄、藤本隆志、門脇俊介、野矢茂樹、高橋哲哉『哲学 原典資料集』(東京大学出版会、1993年)
- 3. 『プロティノス、ポルピュリオス、プロクロス』(世界の名著 15、中央公論社)